

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット海		
所在地	宮城県多賀城市大代3-7-72		
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0470900309&SCD=320&PCD=04
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた町で、安心、安全で暮らせる思いやり、気配り、心配りを大切に、その人らしい暮らしが続けられるようサポート致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀城の中心街からやや奥まった閑静な住宅街と隣接し、近くにスーパー、コンビニ、病院、小学校などの公共施設、そして貞山堀がある。隣家が駐在所で、なにかと心強い立地環境である。幹線道路に面し、多賀城・松島・塩釜からもさほど時間がかからない。共有スペース、居室とも十分な広さがある。理念、方針、スタッフの心得が作成されている。利用者が、職員とともに来訪者にお茶を運び、息子との写真を指差し「いい息子なの、私をここに置いてくれたの。」と語りかけ、別れ際にこやかに手を振ってくれた。理念の「安全と安心で思いやりある穏やかな生活を支える」が実践されている。また、スタッフの心得の「シックスSの実践に努めます。(整理・整頓・清潔・躰・作法・親切)」も徹底されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム貞山みよりの家 ）「ユニット名 海 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りや唱和し、ミーティングでは、職員一人一人が良く理解するよう話し合いケアに実践出来るようにしている。又、各フロアに理念を掲示し、懸念の認識を高めている。	事業所の理念・方針・スタッフの心得を作成し、ミーティングで復唱している。職員はケアに課題が生じたときは常に理念に立ち返り、利用者の穏やかな生活を支えるため、目配り・心配りを意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入し盆踊り、敬老会には、利用者様とともに積極的に参加している。	町内会に加入し、公民館の行事・盆踊りなどに参加、利用者が隣家に回覧板を回す。舞踊のボランティアが訪問し、中学生の職場体験も受け入れている。震災時に地域の一人暮らしの方の避難を引き受けた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。 地域の方々から認知症の相談も受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。又、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	町内会長・班長、民生委員、市職員、駐在所員、消防署員、地域包括職員で構成され、参加可能な家族にも声掛ける。事業所からの状況報告、各分野の情報提供がなされている。非常時の訓練についても話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの活動、取組み等を理解して頂けるよう広報誌を窓口に届けている。又、行事等に参加して頂けるようお願いしている。	市職員が運営推進会議に出席し、外部評価にも同行している。広報誌を届け、相談も密に行っている。震災時には社協とも連携して、避難者を引き受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。日々の申し送り時でも、その日のケアを振り返り点検している。	日中は施錠せず、外出傾向をつかみ寄り添うケアを心がける。隣の駐在所との連携は取れている。研修をし、日々のミーティングでは何気ない言葉による拘束について話し合い、注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の中で勉強会、ミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。今後も権利擁護等の外部の研修に参加し知識を深めたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をとって丁寧に説明している。特に、利用料金、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の契約解除に至る場合は、本人を交えて家族と対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、訪問時、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望などは、ミーティングで話し合い反映させている。	利用者の担当者が決まっており、家族の対応も担当、意見を出しやすい関係を作り上げている。家族は運営推進会議にも参加する。出された意見はミーティングで検討される。家族の要望で、ホームの看板が設置された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ミーティングや、個人面談、事業改善委員会が、運営に関する意見を述べる機会となっている。職員は、出した意見が管理者から社長に伝えられるとともに、検討されていると感じている。体制の改善などがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に現場の情報をしっかり伝えている。職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるように心掛けている。又、研修会での資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内にグループホーム協議会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努め、また、利用者によって通所で利用していただき、ご本人のニーズや不安などを理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行う。本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案し信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす親しい友人に来て頂き談話を楽しくて頂ける環境づくりに努め継続的な交流ができるように働きかけている。	友人が来訪しやすい雰囲気づくりに努める。行きつけの商店などに職員が付き添う支援も行う。生活歴は、本人とともに、家族から十分に把握するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、相談にのったり、又、遊びに来て頂くよう声掛けし、継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などから真意を察し、くみとり確認をするようにしている。又、家族や関係者から情報を得るようにしている。	一人ひとりの担当者が把握した思いは、朝夕のミーティングで全職員に申し送りされる。利用者の要望でお彼岸にぼた餅をつくり、花見に手づくり弁当を持って出かけた。職員は意思表示できない方への思いをくみ取ることも常に意識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。利用後も、ご本人、家族にどんな生活をしていたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録を日誌に記録し、一人一人の一日の暮らし方や生活のリズム、体調の変化等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人、家族、また必要に応じ医師の意見を反映した介護計画を作成している。来訪できない家族には、所長が電話で要望を聞く。3ヶ月に1回見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化、特変事項の記録を介護日誌、ケース記録、申し送りノートに詳細に記録し職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の利用者様の状況を観察し、必要に応じてリーダーや管理者に報告し、家族への連絡を密にし対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や民生委員の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望、納得している医療機関を受診している。	受診は希望のかかりつけ医、基本は家族付添いだが、職員が付添う場合もある。家族へは看護師から情報が提供され、受診後は結果報告がなされている。協力医やバックアップ施設とは連携体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員が不在時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する事項を医療機関に提供し頻りに職員が見舞うようにしている。又、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、ホームの対応について早期から家族等、かかりつけ医療機関と話し合いをし、その時の本人、家族の意思を確認しながら、対応の方針の共有を図っている。	看取りの経験はない。看取りに関する指針は、入居時に家族に説明している。看取りの実施に向け準備中である。	看取りの実施に向けて、協力病院との連携体制の検討と、職員の研修・話し合いを実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。また、年間の所内研修計画により研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に昼間、夜間の避難訓練を行っている。地域との協力体制については、運営推進会議に地域の方に参加していただき連携を図っている。又、消火器の使い方などの訓練も定期的に行っている。	避難訓練は夜間想定も含め、消防署の立会いのもと年2回実施されている。防災マニュアルを見直し、備蓄は1ヶ月分とした。非常口は2ヶ所、車いすの方は1階とした。	災害時には、近隣住民の協力が不可欠であることから、避難訓練時に、近隣住民に参加の働きかけをすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、ミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、人格、尊厳を敬いプライバシーを損ねる事がないように対応に十分留意している。	名前は、家族が呼んでいる呼び方としている。接遇の研修を行い、プライドを尊重したケアを心がけている。トイレ誘導にも声掛けに気遣いが感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情で読み取ったり些細なことでも自分で決めることができるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心掛けている。理容・美容は、訪問美容を利用されています。又、本人の希望があれば望む美容室に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の誕生日、行事メニューは、利用者様と一緒に相談しながら決めています。食事、食事の後片付けも一緒に楽しみながら行っている。	献立は給食委員会が作成し、栄養チェックは、2ヶ月に1回栄養士が行う。利用者ができる範囲で、買い物、準備、後片付けを行い、職員と共に食事を楽しむ。旬のものを取り入れ、口腔ケアにも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報共有している。食事内容を写真や書類に記録、個別の残食等も記録して、栄養摂取量を把握している。栄養師のアドバイスも受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。 排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導で自立を促す。夜間のみポータブルトイレ使用者もいる。トイレは広く、男性用便器が併設されている。誘導でオムツから、トイレ排泄になった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴して頂いている。仲の良い方同士は一緒に、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	毎日でも入浴可能、2日に1回は入浴よう誘導する。本人にあわせた入浴用椅子が用意され、大きい風呂、個浴と希望で入浴でき、そのための体制も強化されている。入浴拒否の方は清拭で対応、声掛けに工夫する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋に関する情報は、利用者毎にファイリングし、職員が把握できるようにしている。服薬時は、本人に手渡しきちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとり力を発揮してもらえるようお願い出来るような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように散歩、買い物、お弁当を持ってドライブ等に出かけている。	日常の買い物などの個別の支援のほかに、ドライブをしたり、季節ごとに、加瀬沼への花見、新緑の多聞山を楽しむ。車いすの方も外出できるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者様には、自分で管理していただいています。買い物等の要望があれば職員と一緒に行き、事務所で管理している人でもお金を手渡し自分で払っていただくよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや職員からの声掛けを行うとともに会話が他の利用者様に聞えないように工夫している。利用者様の希望に応じて手紙も出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや家具の配置は、利用者様と一緒に考えて、利用者様が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうような工夫をしている。	食堂・リビング・トイレなど各所十分な広さがあり、落ち着ける雰囲気である。温度管理は、管理者により適切に行われており、ひな人形、蠟梅が飾られ、華やかな雰囲気を醸し出していた。カレンダーにも工夫が見られ、整理整頓も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホール階段の踊り場にイスやソファ等を置き、絵画や花などで装飾した居心地の良い空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が部屋に持ち込まれ利用者様の居心地の良さに配慮している。	居室は広く、各室に洗面台があり、エアコンが設置され、収納スペースも確保されている。ベッド、机、イスなどを持ち込み、写真などが飾られている。担当者が清掃や整理整頓に配慮していることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、職員一同で話し合い本人の力を取り戻せるよう試みている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット空		
所在地	宮城県多賀城市大代3-7-72		
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0470900309&SCD=320&PCD=04
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた町で、安心、安全で暮らせる思いやり、気配り、心配りを大切に、その人らしい暮らしが続けられるようサポート致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀城の中心街からやや奥まった閑静な住宅街と隣接し、近くにスーパー、コンビニ、病院、小学校などの公共施設、そして貞山堀がある。隣家が駐在所で、なにかと心強い立地環境である。幹線道路に面し、多賀城・松島・塩釜からもさほど時間がかからない。共有スペース、居室とも十分な広さがある。理念、方針、スタッフの心得が作成されている。利用者が、職員とともに来訪者にお茶を運び、息子との写真を指差し「いい息子なの、私をここにしてくれたの。」と語りかけ、別れ際にこやかに手を振ってくれた。理念の「安全と安心で思いやりある穏やかな生活を支える」が実践されている。また、スタッフの心得の「シックスSの実践に努めます。(整理・整頓・清潔・躰・作法・親切)」も徹底されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム貞山みよりの家 ）「ユニット名 空 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りや唱和し、ミーティングでは、職員一人一人が良く理解するよう話し合いケアに実践出来るようにしている。又、各フロアに理念を掲示し、懸念の認識を高めている。	事業所の理念・方針・スタッフの心得を作成し、ミーティングで復唱している。職員はケアに課題が生じたときは常に理念に立ち返り、利用者の穏やかな生活を支えるため、目配り・心配りを意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入し盆踊り、敬老会には、利用者様とともに積極的に参加している。	町内会に加入し、公民館の行事・盆踊りなどに参加、利用者が隣家に回覧板を回す。舞踊のボランティアが訪問し、中学生の職場体験も受け入れている。震災時に地域の一人暮らしの方の避難を引き受けた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。 地域の方々から認知症の相談も受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。又、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	町内会長・班長、民生委員、市職員、駐在所員、消防署員、地域包括職員で構成され、参加可能な家族にも声掛ける。事業所からの状況報告、各分野の情報提供がなされている。非常時の訓練についても話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの活動、取組み等を理解して頂けるよう広報誌を窓口に届けている。又、行事等に参加して頂けるようお願いしている。	市職員が運営推進会議に出席し、外部評価にも同行している。広報誌を届け、相談も密に行っている。震災時には社協とも連携して、避難者を引き受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。日々の申し送り時でも、その日のケアを振り返り点検している。	日中は施錠せず、外出傾向をつかみ寄り添うケアを心がける。隣の駐在所との連携は取れている。研修をし、日々のミーティングでは何気ない言葉による拘束について話し合い、注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の中で勉強会、ミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。今後も権利擁護等の外部の研修に参加し知識を深めたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をとって丁寧に説明している。特に、利用料金、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の契約解除に至る場合は、本人を交えて家族と対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、訪問時、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望などは、ミーティングで話し合い反映させている。	利用者の担当者が決まっており、家族の対応も担当、意見を出しやすい関係を作り上げている。家族は運営推進会議にも参加する。出された意見はミーティングで検討される。家族の要望で、ホームの看板が設置された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ミーティングや、個人面談、事業改善委員会が、運営に関する意見を述べる機会となっている。職員は、出した意見が管理者から社長に伝えられるとともに、検討されていると感じている。体制の改善などがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に現場の情報をしっかり伝えている。職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるように心掛けている。又、研修会での資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内にグループホーム協議会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努め、また、利用者によって通所で利用していただき、ご本人のニーズや不安などを理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行う。本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案し信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす親しい友人に来て頂き談話を楽しくて頂ける環境づくりに努め継続的な交流ができるように働きかけている。	友人が来訪しやすい雰囲気づくりに努める。行きつけの商店などに職員が付き添う支援も行う。生活歴は、本人とともに、家族から十分に把握するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、相談にのったり、又、遊びに来て頂くよう声掛けし、継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などから真意を察し、くみとり確認をするようにしている。又、家族や関係者から情報を得るようにしている。	一人ひとりの担当者が把握した思いは、朝夕のミーティングで全職員に申し送りされる。利用者の要望でお彼岸にぼた餅をつくり、花見に手づくり弁当を持って出かけた。職員は意思表示できない方への思いをくみ取ることも常に意識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。利用後も、ご本人、家族にどんな生活をしていたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録を日誌に記録し、一人一人の一日の暮らし方や生活のリズム、体調の変化等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人、家族、また必要に応じ医師の意見を反映した介護計画を作成している。来訪できない家族には、所長が電話で要望を聞く。3ヶ月に1回見直しながされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化、特変事項の記録を介護日誌、ケース記録、申し送りノートに詳細に記録し職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の利用者様の状況を観察し、必要に応じてリーダーや管理者に報告し、家族への連絡を密に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や民生委員の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望、納得している医療機関を受診している。	受診は希望のかかりつけ医、基本は家族付添いだが、職員が付添う場合もある。家族へは看護師から情報が提供され、受診後は結果報告がなされている。協力医やバックアップ施設とは連携体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員が不在時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する事項を医療機関に提供し頻りに職員が見舞うようにしている。又、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、ホームの対応について早期から家族等、かかりつけ医療機関と話し合いをし、その時の本人、家族の意思を確認しながら、対応の方針の共有を図っている。	看取りの経験はない。看取りに関する指針は、入居時に家族に説明している。看取りの実施に向け準備中である。	看取りの実施に向けて、協力病院との連携体制の検討と、職員の研修・話し合いを実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。また、年間の所内研修計画により研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に昼間、夜間の避難訓練を行っている。地域との協力体制については、運営推進会議に地域の方に参加していただき連携を図っている。又、消火器の使い方などの訓練も定期的に行っている。	避難訓練は夜間想定も含め、消防署の立会いのもと年2回実施されている。防災マニュアルを見直し、備蓄は1ヶ月分とした。非常口は2ヶ所、車いすの方は1階とした。	災害時には、近隣住民の協力が不可欠であることから、避難訓練時に、近隣住民に参加の働きかけをすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格、尊厳を敬いプライバシーを損ねる事がないように対応に十分留意している。	名前は、家族が呼んでいる呼び方としている。接遇の研修を行い、プライドを尊重したケアを心がけている。トイレ誘導にも声掛けに気遣いが感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情で読み取ったり些細なことでも自分で決めることができるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心掛けている。理容・美容は、訪問美容を利用されています。又、本人の希望があれば望む美容室に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食事をとり、食事の後片付けも一緒にしております。利用者の誕生日食、行事食を楽しまれています。	献立は給食委員会が作成し、栄養チェックは、2ヶ月に1回栄養士が行う。利用者ができる範囲で、買い物、準備、後片付けを行い、職員と共に食事を楽しむ。旬のものを取り入れ、口腔ケアにも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報共有している。食事内容を写真や書類に記録、個別の残食等も記録して、栄養摂取量を把握している。栄養師のアドバイスも受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。 排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導で自立を促す。夜間のみポータブルトイレ使用者もいる。トイレは広く、男性用便器が併設されている。誘導でオムツから、トイレ排泄になった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴して頂いている。仲の良い方同士は一緒に、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	毎日でも入浴可能、2日に1回は入るよう誘導する。本人にあわせた入浴用椅子が用意され、大きい風呂、個浴と希望で入浴でき、そのための体制も強化されている。入浴拒否の方は清拭で対応、声掛けに工夫する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の一日の生活パターンを把握し安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋に関する情報は、利用者毎にファイリングし、職員が把握できるようにしている。服薬時は、本人に手渡しきちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や季節毎の行事を取り入れ、その作業による喜びを実感して頂く様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように散歩、買い物、お弁当を持ってドライブ等に出かけている。	日常の買い物などの個別の支援のほかに、ドライブをしたり、季節ごとに、加瀬沼への花見、新緑の多聞山を楽しむ。車いすの方も外出できるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者様には、自分で管理していただいています。買い物等の要望があれば職員と一緒に行き、事務所で管理している人でもお金を手渡し自分で払っていただくよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや職員からの声掛けを行うとともに会話が他の利用者様に聞えないように工夫している。利用者様の希望に応じて手紙も出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、イベント写真、押し花を飾り居心地良く過ごされている。	食堂・リビング・トイレなど各所十分な広さがあり、落ち着ける雰囲気である。温度管理は、管理者により適切に行われており、ひな人形、蠟梅が飾られ、華やかな雰囲気を醸し出していた。カレンダーにも工夫が見られ、整理整頓も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホール階段の踊り場にイスやソファ等を置き、絵画や花などで装飾した居心地の良い空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不安なく生活が出来るように居室には、使い慣れた物を活かし楽しく生活出来るよう努めている。	居室は広く、各室に洗面台があり、エアコンが設置され、収納スペースも確保されている。ベッド、机、イスなどを持ち込み、写真などが飾られている。担当者が清掃や整理整頓に配慮していることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、職員一同で話し合い本人の力を取り戻せるよう試みている。		